授業改善推進プラン＜外国語科＞

外国語科における授業改善推進プランの検証

＜成果＞
〇ほとんどの領域・内容において、正答率が目標値を上回った。特に書くことの領域に関しては、すべての内容において区や全国の平均値と比べて大幅に上回った。
〇聞くことの領域において、単語の発音を聞いてその意味を理解する内容は目標値や全国平均を大幅に上回った。授業での ALT とのやり取りを多く取り入れていることにより単語を聞く力や理解力が高まった。
＜課題＞
●読むことの領域、アルファベットの読み（聞く）の理解。（問題の読み取り）
●聞くことの領域、日常会話の理解。

外国語科における調査結果の分析

	学年	（　　）は正答率が区の平均値を下回った内容	考察
内容別結果の分析	６年	聞くこと （日常会話の理解）	●区や全国平均と比べると、日常会話の理解度が低い。中学校での結果を踏まえてもまとまった英文を、取捨選択しながら聞くことに慣れていないように感じる。小学校では中学校に比べると聞き取る情報量は少ない。場面に応じて身近で簡単な事柄について、必要な情報を聞き取る力を育てたい。
		読むこと （アルファベット・単語の読み）	●読むことの領域において目標値は上回っているが、目標値、区や全国平均を下回っているのは、アルファベットの読み（聞く）である。校内平均が目標値に対して－５％以上である。アルファベットの読みを音声で聞き取り、活字体で書かれたものを識別し、選択する問題で誤答が多い。それぞれの問題で、目標値が 90.0 に対して校内正答率が 83.2 目標値が 85.0 に対して 81.1、目標値が 80.0 に対して 77.9、目標値が 85.0 に対して 77.9 と、全ての問題で正答率が低い。活字体で書かれた文字を識別し、その読みを理解できるようにしたい。 ※問題の読み取りと答え方で混乱が見られた。似たような問題形式に慣れておく必要がある。 ●目標値は上回っているが、区の平均を下回っているのは、単語の読みである。目標値は 71.7、区の平均が 80.1、校内正答率は 77.5 という結果であった。
		書くこと	〇すべての内容において、目標値や平均を上回っている。
観点別結果の分析		課題のある観点領域 知「知識・技能」　思「思考・判断・表現」主「主体的に学習に取り組む態度」	
		〇３観点とも目標値を、上回っている。「知識・技能」は４ポイント、「思考・判断・表現」は５ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は６ポイント、区や全国の平均を上回っている。	

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動の充実。 2　中学年から継続的な活字体で書かれた文字の識別とその読み方を発音する指導の強化。 3　内容の理解やコミュニケーション活動等において、つまずいている児童への支援。

外国語科の授業改善策

1・日常会話の理解度を定着させるため、場面に応じて身近で簡単な事柄について、必要な情報を聞き取る活動を増やす。(Dictation を多く取り入れる。) ・会話を聞き、それらを表すイラストや写真を選ぶ活動を増やす。イラストや写真は、できるだけ身近なものを取り入れ、児童が想像しやすいような工夫をする。 ・オーラルイントロダクション、音読の重視により、決まった表現の定着を図る。また、音読を重視することで意味処理のスピードを上げ、まとまった量の英文を聞き取る力を身に付けさせる。 ・リスニングテストは、問題を解いた後にスクリプトを確認し、0 答えになる部分とその前後の文をチェックして、何が必要な情報なのか確認する。 2・前学年で使用した教科書や教科書以外の単語、表現を復習する機会を増やし、単語力を身に付ける。 ・アルファベットの読みでつまずきが見られる。アルファベットは３年生の国語で初めて学習する。外国語活動の授業では、読み方を確認する程度である。３年生でのアルファベットの学習を大切にしたい。また、必要な語、慣用表現については３、４年で取り扱った語（600～700 語程度）も含まれるため、中学年からの外国語活動での積み重ねを大切にしていきたい。 3　学習意欲が不足している児童への対策として、次のような配慮をする。 ・授業は基本オールイングリッシュで行われるため、理解できずにつまずく児童がいる。子供同士で教え合ったり、担任や外国語専科が個別に支援を行ったりして、苦手意識をもたせないようにする。 ・個人内での評価を重視し、以前よりも向上したことを自覚できるようにすることで、学習意欲を高めていけるようにする。